

ベニグノ・アキノ3世

フィリピン大統領



同じ災害多発国として
経験を共有

例 年約20の台風が襲来するフィリピンは、その他にもさまざまな自然災害が発生する災害多発国です。これまでの被災で得た教訓から、災害リスクや被害を減らすためには、災害後の対応ではなく、事前の対策、すなわち防災対策の強化が重要だと考えています。

その取り組みの一つが、洪水対策として、最新の科学技術を活用した洪水監視の強化や情報へのアクセス改善です。その結果、2013年11月にレイテ島を直撃した台風ハイエンの際も、事前に国民に警告を出し、救援のための物資提供や人員配置に対応することができました。しかしながら、その規模は想定をはるかに超え、広大な地域が壊滅的な被害を受けました。

この経験を契機に、国家や地域の開発計画の中に、防災の視点が組み込まれているか再評価を行っています。また、防災対策の強化に加え、被災地が、被災と復興を繰り返す負の循環に陥らないよう、“Build Back Better (より良い復興)”を掲げ、災害に強い社会づくりを目指しています。

これまでJICAの支援を通して共有されてきた同じ災害多発国である日本の経験や技術、例えば、“Build Back Better”の推進、防災に関する行政能力の強化、防災計画の策定、洪水対策などは、フィリピンが防災を強化していく上で不可欠です。防災の取り組みを通じて持続的な成長を遂げるため、これまでも、そしてこれからもJICAは重要なパートナーなのです。

PROFILE

Benigno S. Aquino III

1960年フィリピン出身。アテネオ・デ・マニラ大学卒業。98年に下院議員、2007年に上院議員に当選。2010年に大統領選挙に立候補し当選。包括的な成長を目指し、雇用創出、貧困削減、グッドガバナンス、汚職撲滅、インフラ投資などを政策の柱とする。

マルガレータ・ワルストロム

国連事務総長特別代表(防災担当)



日本と協力し
防災の知恵を行動へ

国 連国際防災戦略事務局 (UNISDR) は国連の一組織として、防災分野の政策や国際協力の推進を目的に活動しています。私は国連事務総長特別代表として、2008年11月からその事務局を率えています。

国境を超えて広がる自然災害への備えや防災対策として、開発途上国の能力強化は大きな課題です。そこで私たちが果たすべき役割は、各国が持つ防災の知恵を具体的な行動に移していけるよう、国際社会が一堂に会して議論・協働する場をつくること。また、各国政府、市民社会、企業などの力を結集し、全ての人たちに防災の知識が広まるよう、着実に取り組みを進めていかなければなりません。

2015年3月の第3回国連防災世界会議で国連が焦点を当てたいテーマの中には、「より良い復興」、「防災における女性のリーダーシップ」、「包括的災害リスク管理」、「リスクを考慮した投資」などがあります。今回は宮城県仙台市で開催されることから、世界各国の参加者が東日本大震災の被災地を視察する機会にもなります。東北地方の復旧・復興を目の当たりにすることで、日本の経験や技術を肌で感じ、また同時に課題について学ぶのは大変意義のあることです。

日本の経験を生かして防災分野の協力に取り組んでいるJICAと、今後も互いの知見を分かち合い、協働し、途上国での支援のインパクトを高めていきたいと考えています。

PROFILE

Margareta Wahlström

1950年スウェーデン出身。ストックホルム大学博士課程で経済史を研究。国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)、国際赤十字社・赤新月社連盟、国連アフガニスタン支援団 (事務総長特別副代表) などを経て、2008年より現職。